

授 業 科 目					教育課程区分・対象学期・単位数・履修年次			職 名		担 当 教 員	
教養特別講座  英文名：Liberal Arts Special Course					教養科目（領域を超えて学ぶ科目）			名誉教授		大谷 孝行 他	
					対象学期	単位数	履修年次				
					後期	2 単位	1・2・3・4 年				
授 業 の 内 容	< 授業の概要 > 笑いを高度に発達させた生物は人間だけです。その人間の笑いを様々な側面から考察し、笑いの特徴や奥深さについて理解するとともに、ままならぬ人生を前向きに前進する力を身につけます。  キーワード： ① 笑い ② ユーモア ③ 演芸 ④ 健康 ⑤										
	< 到達目標 > 1. 「笑いの理論」を理解し、この理論から日常の笑いを分析することができる。 2. 様々な日本の演芸や日本人の笑いの特徴を理解し、それを他者に説明することができる。 3. 「ユーモア」についての理解を深め、ユーモア精神で人生を歩むきっかけにすることができる。										
	該当するディプロマポリシー				1. 「人」としての能力（人間性の向上）						
	該当するカリキュラムポリシー				①学生の基礎的能力の向上				⑥幅広く多様な専門知識の修得		
	キー・コンピテンシー（重視する能力）					教授方法（授業方法）					
	コミュニケーション力	協働力	課題解決力	人間理解力	教育支援力	知識教授型	対話型授業	演習・反復型授業	グループ学習	地域フィールドワーク	授業外学習指導・自主活動
	◎		○			◎	○	○			
	< 授業計画 >										
	第1回 オリエンテーション。笑いを「笑いの理論」から理解する 富山国際大学名誉教授 大谷孝行										
	2/24	本講座の全体的な内容を説明するとともに、人がなぜ笑うのかについて説明した「笑いの理論」のうち、代表的な「優越の理論」、「ズレの理論」、「ストレス発散理論」、「愉快的心理的転位説」について、文献や実例を参照しながら詳しく解説します。また、笑うのは動物の中で人間だけなのかについて、霊長類学の知見も紹介しながら、人間の笑いについて考えます。									
	第2回 日本の芸能の理解を深める(1) 富山国際大学名誉教授 大谷孝行										
	2/24	笑いに関する日本の芸能のうち、「漫才」の特徴について解説します。特に「ボケ」と「ツッコミ」について説明し、実例を紹介しながら漫才を鑑賞します。									
	第3回 日本の芸能の理解を深める(2) 富山国際大学名誉教授 大谷孝行										
	2/24	笑いに関する日本の芸能のうち、「落語」の特徴について解説します。一人話芸の代表である落語の魅力を説明し、実例を紹介しながら落語を鑑賞します。									
	第4回 二元結合としての笑い 富山国際大学名誉教授 大谷孝行										
	2/24	笑いの特徴の一つである「二元結合」という点を理解し、言葉の遊びとしてダジャレを作ってみます。また、名画にセリフをつけて楽しむという作業をします。									
	第5回 日本の芸能の理解を深める(3) 富山国際大学名誉教授 大谷孝行										
	2/25	笑いに関する日本の芸能のうち、「コント」の特徴について解説します。テレビにおける日本のコント史やコントの構成を学び、実例を参照しながらコントを鑑賞します。									
	第6回 大阪の笑いについて学ぶ 富山国際大学名誉教授 大谷孝行										
	2/25	笑いについて独自の発展を遂げた地域が大阪です。その大阪の笑いの特徴について理解を深めます。大阪の人なら誰もが知る「吉本新喜劇」や、関西地方では有名な長寿番組「探偵！ナイトスクープ」の笑いについても実例を紹介しながら解説します。									
第7回 映画『男はつらいよ』に学ぶ人生観(1) 富山国際大学名誉教授 大谷孝行											
2/25	喜劇俳優・渥美清が演じた国民的映画『男はつらいよ』は、一人の俳優が主人公を演じたシリーズ映画としては、異例の48作まで続いたギネス記録にもなっている作品です。この映画について、特に「情」という点から考察しながら、その魅力に迫ります。										
第8回 映画『男はつらいよ』に学ぶ人生観(2) 富山国際大学名誉教授 大谷孝行											
2/25	映画『男はつらいよ』の特徴として、喜劇的側面をもつほかに、その時代時代の社会問題をも扱った作品が多く見られます。映画を鑑賞しながら、日本が置かれている社会問題について考えてみましょう。										
第9回 様々な学問分野や立場から笑いを考える(1) 富山国際大学現代社会学部准教授 Bogdan PAVLIY											
2/26	異文化コミュニケーションと笑い。外国人教員から見た笑い。西洋のヒューモアを考えながら、日本と西洋の笑いの違いについて意見交換を行います。										
第10回 様々な学問分野や立場から笑いを考える(2) 富山国際大学現代社会学部講師 申 英姫											
2/26	中国や韓国から見た日本人の笑いについて考えます。中国や韓国の笑いとの日本の笑いを比較して、それぞれの国の笑いの特徴について学びます。										
第11回 様々な学問分野や立場から笑いを考える(3) 富山国際大学子ども育成学部教授 村上 満											
2/26	“笑い（ラフター）ヨガ”ってご存じですか？コロナ禍ということもあり、オンライン講座等による開催も行われているようです。県内での活動も紹介しながら、福祉分野における笑いを取り入れることの大切さをお伝えしてみたいと思います。										
第12回 様々な学問分野や立場から笑いを考える(4) 笑いを軸に情報を考える 富山国際大学現代社会学部教授 豊岡 理人											
2/26	近年、情報技術の分野では機械学習で作られた生成AIが話題となっています。この機械学習がなぜここまで急速に発展したか、実際に笑顔を判定する生成AIを作って理解することを試みます。										
第13回 人生におけるピンチと笑いについて考える 富山国際大学名誉教授 大谷孝行											
2/27	人生で困難に直面したとき、自分で悩みを深めてしまう生き方でなく、困難を乗り越えるために笑いをうまく活用することについて考えます。また、困難な状況を笑いに変える方法としての川柳について学び、自分を笑い飛ばす川柳を作ってみましょう。										
第14回 「老いと笑い」について考える 富山国際大学名誉教授 大谷孝行											
2/27	超高齢社会という日本の現状の中で、老いと笑いについて考えましょう。老いを単に否定的に捉えるのではなく、笑いとの関係で積極的に老いを捉え返すことを学びましょう。また、富山県民にとつての笑いの意義を、県民性との関係で考えてみましょう。										
第15回 「幸福と笑い」について考える 富山国際大学名誉教授 大谷孝行											
2/27	笑いは心身の健康に効果的であるため、笑いを健康のために活用する「笑い療法」も存在します。笑いが身体に及ぼす影響について学び、人生で笑うことを忘れないユーモア精神についても学びましょう。										
第16回											
評価方法	到達目標1・2・3については、課題の提出を中心に評価します(100%)。ただし、欠席した授業の課題については提出できません。なお、評価する基準は、「富山国際大学成績評価基準」にしたがって評価します。 ①人間性：80%、 ②社会性：20%										
使用資料	テキスト： テキストは特に使用しません。授業の際にレジュメや資料を配付します。					参考図書： 授業中、随時指定します。					
授業外学修等	集中講義のため、1日の授業が終了したら、その日の学びの内容について、事後の復習を行ってください。										
授業外質問方法	大谷のメールアドレス(otani@tuins.ac.jp) に随時、質問を送ってください。								・オフ ・ア ・フ ・イ ・ス	曜日 時 限	